チームA1

2020年9月18日

東北公益文科大学インターンシップ

行動する市民を増やすために

報告者：東、石塚、熊谷、今田、島津、長岡

目次

1.提案の目的

2.提案１～学生を中心とした提案～

3.提案２～学生以外を対象にする提案～

4.情報発信について提案

5.考察

提案の目的

設定テーマ

「市政に参加する市民(若者)を増やすためには？」

提案の目的

しかし、現状では…

・意見を言いっぱなしにしてしまう市民の存在

・制度は整備されているが、市民が知らない

提案の目的

最終目標

「行動する市民(若者)を増やす」

提案1

学生を中心とした提案

意義･概要

＜大きな目標＞
学生の**行動力の獲得**・後の**世代の育成**
→将来的に**行動する市民**となる
＜ターゲット＞
高校生、**大学生**

ステップ１

市政について**知る**

ステップ２

地域のことについて自分事として**捉える思考**を身につける

ステップ３

行動するための第一歩を**踏み出す力**を身につける

ステップ1：市政について知る

【高校生】

総合の時間等の授業にて基礎知識を身につける

知らないということをなくすために授業で市政に触れる

→市政は身近なものだと気づいてもらう

ステップ1：市政について知る

【大学生】

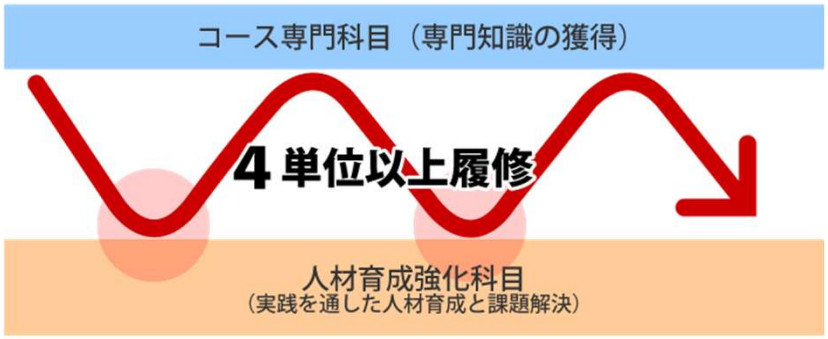
大学生は単位を取得するために一定数の履修者が存在する

公益大生は将来公務員を志望している人が多い

　　→意欲の高い学生を集めることが可能

普段の講義の中で基礎知識を身につける

日々の学修の中で、どのような知識が市政に役立つのかを考える



出所：東北公益文科大学

ステップ2：自分事としてとらえる

〈目標〉
地域のことについて自分事としてとらえる思考を身につける
〈手法〉
・課題発見のワークショップの実施（複数回）
・複数校の高校生と大学生が酒田の現状について話し合う
　　→普段は触れない面を知る
　　→他人事という状態を脱却

ステップ2：自分事としてとらえる

課題解決へのアプローチ方法を考える

→市のことを自分のこととしてとらえることができるのではないか

ステップ3：行動に移す力を得る

〈目標〉
　行動するための第一歩を踏み出す力を身につける
〈手法〉
・課題に対する解決案に実際に挑戦する
・実際に行動を起こす
　　→言いっぱなしの状態ではなく、ワンランク上へ
・実際に行動を起こしたという体験がある
　　→次回から行動する際の一歩目が軽くなる

提案2

学生以外の若者を対象にする提案

意義・概要

ワークショップを企画・運営することで今まで知らなかった問題やテーマについて深く知り、行動力を身につける

ステップ1

目標：市政について知る

👇

ステップ2

目標：興味のあるテーマについてのワークショップを企画する

👇

ステップ3

目標：実際に行動する意義を知る。

ステップ1：市政について知る

＜手法＞

- 酒田市に住所を置く若者を対象に無作為抽出を行い、酒田市の現状を学び、ともに考え、話し合うための若者中心のワークショップに参加してもらう（複数回実施）
- 若者が市民参加や行政について学習し、行政職員、NPO・NGO法人、ボランティア団体等も交えてともに考える場とする。
- 若者の意見の聴取だけでなく、若者自身が議論と交流を楽しみ、持続的な参加のきっかけになることを考慮する

ステップ1：市政について知る

＜対象者＞

酒田市在住の男女18～35歳

ステップ２：興味のあるテーマについてワークショップを企画する

＜手法＞

　ステップ１のワークショップを通し自分の興味をひかれたテーマのグループを作成する。そのグループが主体となって、ワークショップを企画する。

＜意図＞

　行動力養成の第１歩となるもの。興味のあるテーマについてイベントを企画することで自分事としてそのテーマについて考えることが出来るため、継続的にそのテーマについて調査意欲が維持できる。

ステップ3：実際に行動する意義を知る。

＜手法＞

　ステップ２で企画したワークショップを実際に運営・進行する。

＜意図＞

　実際に自分の手で実施することで、実施しなかった場合と実施した場合の差異を考えることで今後の、現状を改善するための行動力を気づかせることができる。

ステップ３：実際に行動する意義を知る。

＜対象者＞

　ステップ１で無作為抽出された人・NPO,NGO関係、一般参加の市民

4. 情報発信の手段について

- SNS、動画サイトを使い、参加者の意見、感想を発信する。
- 発信の際に、市民側に生じるメリットについても述べる。
- 全て匿名で発信する。

考察

- 市の未来を担う若者を、市民参加によって育成するという効果
- 無作為抽出のワークショップから興味を持ってもらい、意見の発信をして市民に行動するという意識を身に付けてもらうという効果